令和３年度　校内研修報告書

下関市立豊浦小学校

１　学校教育目標

自他を大切にし、共に伸びようとする児童の育成

～三気の教えと郷土愛を誇りとし、知徳体のバランスのとれた育成を基調として～

研修主題

自ら考え、表現する子供の育成

～　主体的・対話的で深い学びを通して　～

２　主題について

（１）前年度の研修の成果と児童の現状

本校では、平成２９年度より３年間、「学びを活用する子どもの育成　～国語科・算数科での思考力・表現力を高めるための指導法の工夫～」を主題とし、研修を進めてきた。そして、昨年度からは、新学習指導要領を踏まえて、思考力・表現力に一層焦点化した研修主題「自ら考え、表現する子供の育成～主体的・対話的で深い学びを通して」に改め、共通理解を図りながら取り組んできた。

また、学力向上部との連携により、児童につけたい力を明確にし、作成した「学力向上プラン」を軸に研修を進めた。思考力・表現力を高めるための指導法の工夫や基礎的・基本的な学力の定着を図るための継続活動、授業の基本や学習習慣について、同学年や全校で共通理解をし、日々の授業に取り組んだ。

成果としては、同学年で教材研究をし、一人一授業公開後に研究協議会を行うことで、授業改善を図ることができた。学期ごとに見直しを行った「学力向上プラン」では、年度当初に比べ伸びたと答えた割合が、知識・技能の観点では６４％、思考力・判断力・表現力等の観点では、８６％であった。課題としては、副主題として設定した「対話」について、コロナ禍における「対話」の意味を考え、それぞれの活動を設定し、取り組んでいく必要がある。また、昨年度に行われたもののうち、６年生対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果から、記述式の問題に課題が見られた。国語科では、条件に合わせて記述する経験を積み重ねていく必要がある。算数科では、根拠となる式を明記して解答しなくてはならない問題に課題があった。

これらのことから、新学習指導要領で求められている資質・能力を身に付け、自ら考え、表現する子供を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、直面する課題を解決するために必要な思考力・表現力をさらにつけていくことが課題であると考えた。前年度の研究の成果と課題、また児童の実態を踏まえて、今年度も引き続き研究主題を「自ら考え、表現する子供の育成～主体的・対話的で深い学びを通して」と設定した。

主題　「自ら考え、表現する子どもの育成」

考え　→　思考力（判断力）

表現する　→　表現力

副主題・「主体的な学び」

子どもが主体的に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりしながら自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。

・「対話的な学び」

対話によって自分の考えを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。

・「深い学び」

学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか。

３　研究の内容

（１）新学習指導要領で求められる資質・能力について

新学習指導要領では、育成すべき資質・能力の柱として、次の３点が示されている。

① **知識・技能**～何を理解しているか、何ができるか
② **思考力・判断力・表現力等**～理解していること、できることをどう使うか
③ **学びに向かう力、人間性等**～どのように社会とかかわり、よりよい人生を送るか

この３点について、「小学校学習指導要領平成２９年度告示」では、

> 単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられることに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること

とあり、これを礎とし研究を進めることとした。

（２）「思考力・表現力の育成」について

国語科・算数科の２教科において、年度当初の児童の実態から、各学年のつけたい学力を明らかにする。基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていないと、十分に思考したり、豊かに表現したりすることが難しい。つまり、基礎・基本を身に付け、思考力・表現力を伸ばす授業を展開するためには、教師がその単元で、児童にどのようなことを考えさせたいかというイメージをしっかりもつことが大切である。1 時間の授業の中で、児童の実態を踏まえながら、どのような思考をさせることで、どのような表現につなげ、どのように児童の思考力・表現力を高めていきたいのかを明確にして授業に臨む必要がある。そのためには、日々の授業改善が不可欠である。授業が充実すれば、児童は、主体的に思考を働かせ、表現意欲が増すものと考えた。

４　研究の実際

（１）本校の「児童につけたい学力」を明確化

本校児童の日頃の様子及び全国学力・学習状況調査の結果から、本校児童の課題を次のようにまとめ、日々の授業改善及びタブレット端末を活用した授業のあり方について研修を進めた。

また、タブレット端末の効果的な活用推進に向け、主体的・対話的で深い学びとのベストミックスを探るための実践的な研究を進めることとした。

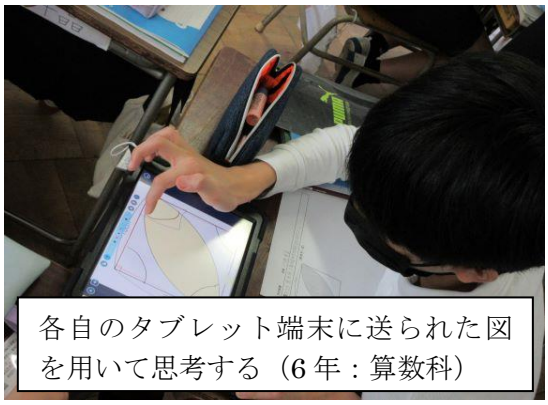
国語科	・主語述語などの関係に注意して、文を正しく書くこと ・文章の内容を的確に押さえて読むこと ・目的や意図に応じて、自分の考えを書くこと ・条件に合わせて書くこと
算数科	・問題を適切に読み取ること ・題意に合った説明（記述）をすること ・根拠となる式を明記して解答をすること

本校児童の「身に付けさせたい学力」

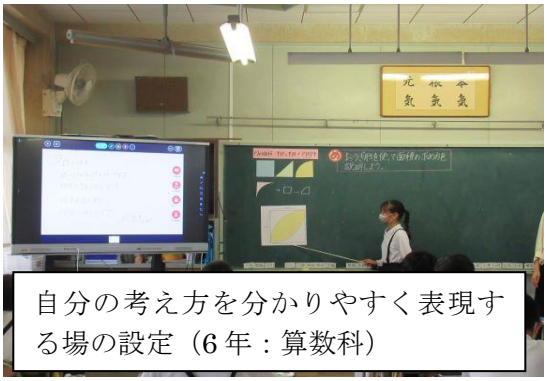
（2）研究授業と協議

授業では、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、課題提示の場面、考える場面、一人学びの場面、考えを伝え合う場面等、効果的なタブレット端末の活用について、実践的に研究を重ねてきた。授業では、タブレット端末の活用が注目されがちであるが、端末の活用自体が目的ではなく手段であることを踏まえ、授業実践を進めた。

考え方を伝え合う活動（6 年：算数科）



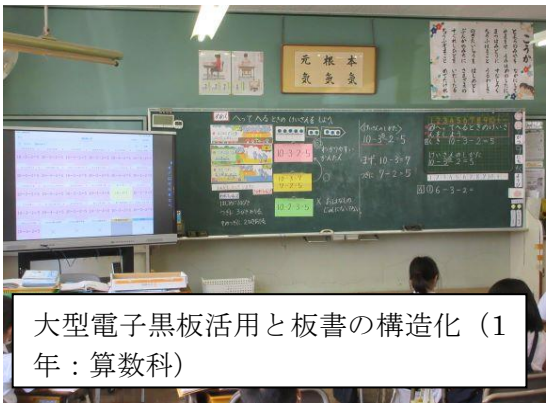
各自のタブレット端末に送られた図を用いて思考する（6 年：算数科）



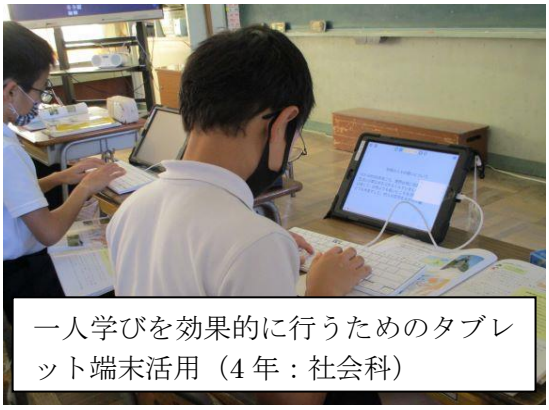
自分の考え方を分かりやすく表現する場の設定（6 年：算数科）

タブレット端末を用いた仲間との試行錯誤（3 年：国語科）

学びを深める子供同士の学び合い（1 年：算数科）



大型電子黒板活用と板書の構造化（1 年：算数科）



一人学びを効果的に行うためのタブレット端末活用（4 年：社会科）

仲間同士の意見交換（4 年：社会科）

また、研究授業の協議の最後に協議参加者は**「授業改善宣言」**を書くこととした。これは授業や協議会をもとに、自分の実践を振り返り、自分が学んだことや自分の授業に生かすこと、明日から実践してみること等を付箋に端的に書いたものである。これを各ブロック学年の研究推進委員と職員研修部がまとめ、職員室のよく見える場所に掲示した。授業者へのお礼やメッセージ等ではなく、あくまでも自分に返すものであり、授業改善への意識を高めることがねらいである。

子供たちの振り返りを次の授業に生かせるような授業づくりに努めたい。

〇〇〇〇

「授業改善宣言」の例（※付箋に記入）

教員による授業後のグループ研究協議（算数科）

研究協議後の「授業改善宣言」

5　研究の成果と課題

（1）成果

〇身に付けたい学力を学習指導案に明記したことにより、授業の中で意図した活動を仕組むことができた。

〇タブレット端末を活用した授業に意識して取り組んだことにより、実践を共有することができた。加えて、活用の場面や方法（いつ、どこで、どのように）についても実践を参考に教職員が研修を進めることができた。

（2）課題

タブレット端末を活用すること自体が目的ではなく、学習のめあてを達成するための手段であることをふまえる必要がある。特に、研究主題にある「自ら考え、表現する子供」を育てるために、どのような手立てが必要なのか、引き続き研修を進めていきたい。